

— 所沢飛行場ものがたり —

日本初の航空殉職者



木村鈴四郎陸軍砲兵中尉



徳田金一陸軍歩兵中尉

日本に飛行機が導入されて以来、**初めての死亡事故が大正2(1913)年3月28日所沢飛行場近くで**起きました。初めての**事故死者は木村鈴四郎陸軍砲兵中尉と徳田金一陸軍歩兵中尉**でした。この日陸軍省は貴族院議員と衆議院議員を対象に飛行機、飛行船の観覧会を青山練兵場で開催しました。木村・徳田両中尉の事故は、この観覧会からの帰りに所沢飛行場を目前にして起こりました。両飛行士が乗ったブレリオ単葉機は11時36分青山練兵場を出発し、正午過ぎ松井村字牛沼北方の松井村下新井柿木台上空でエンジン不調と突然の突風を受けて左翼が上方に向かって折れて飛んでしまい、機体は300メートル上空から機首を地上に向けて垂直に落下し、共に即死でした。

日本初の航空犠牲者に対して国民すべてが深くその死を悲しみ、両中尉には正七位勲六等の勲章が贈られ、更に天皇陛下からも祭祀金50円が贈られました。



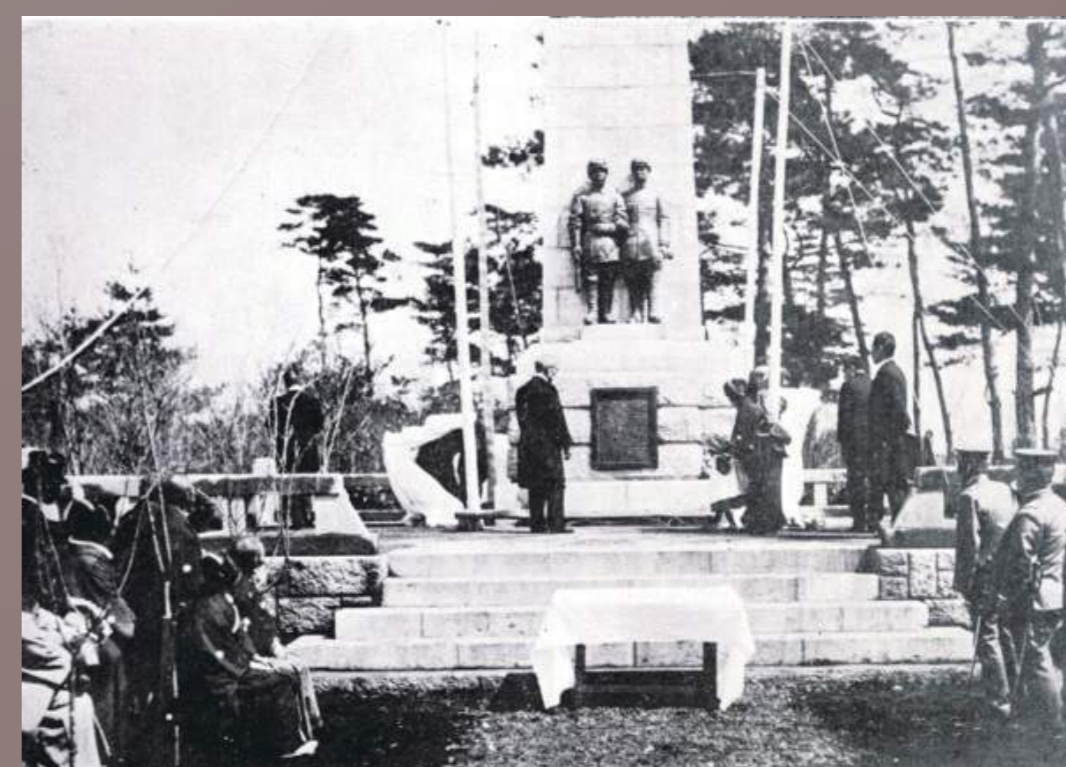
青山練兵場から所沢へ帰還する両中尉同乗のブレリオ機

両中尉の葬儀



所沢飛行場から出棺する葬列

両中尉の所沢飛行場での葬儀は大正2(1913)年3月31日午前11時20分から曹洞宗薬王寺住職林方隆師が棺前読経をし、12時に飛行場を出棺、会葬者は飛行場から飛行機新道、日吉町を通り所沢駅に行き、停車場踏切南方まで見送りました。その後、棺は馬車で落合の火葬場まで行き荼毘に付し、4月1日九段偕行社で納骨、4日青山斎場で神葬式葬儀を行いました。所沢での会葬には一般会葬者が400～500人に及び、各戸には弔旗(ちょうき)を立て、弔意(ちょうい)を表しました。翌大正3(1914)年3月28日、木村・徳田両中尉殉職一周忌に、東京の「やまと新聞」の呼びかけで集められた義援金をもとに建てられた記念塔の除幕式が墜落の地で行われます。両中尉の英霊を慰めるために所沢町民、松井村の在郷軍人会や青年会も建設作業に協力しました。その後この記念塔は人目につきやすい所沢駅前に移転、終戦時には西武園に移され、その後航空自衛隊入間基地に保管展示されましたが、現在は所沢航空記念公園に移築されています。航空機による殉職事故は大正時代だけでも全国で45件、60人が死亡、所沢飛行場関係では墜落事故が17件あり19名の貴い生命が失われています。



記念塔の除幕式